

令和4年度第53回千葉県中学校新人バスケットボール大会

女子準決勝 戦評

〔女子準決勝〕

		12-15	
		11-9	
昭和学院中学校	55	41	翔凜中学校
(市川・浦安)		16-10	
		16-7	(君津)

【評】

昭和学院はオールコートマンツーマン、翔凜はハーフコートマンツーマンでスタート。昭和学院は#4山本のスリーポイントで先制する。対する翔凜はハードなディフェンスや#50及川のオフENSスリバウンドから流れをつかみ、3点リードで1Qを終える。

2Q、昭和学院は#4山本がスリーポイントを2本決め、得点を重ねる。翔凜はポストプレーやドライブから得点し、一進一退の攻防を繰り広げ、翔凜が1点リードし、前半を終える。

3Qの序盤、昭和学院は#5新谷のミドルシュートやフリースローなどで得点し、終盤は#6伊東のミドルシュートやドライブからの得点が決まり、逆転に成功する。

4Qに入り、昭和学院は#4山本のスリーポイントや速攻からの得点で点差を広げる。翔凜は#1上田のスリーポイントや#50及川のゴール下で盛り返す。しかし、昭和学院がハードなディフェンスやリバウンドから流れを渡さず、55-41で勝利し、決勝進出を決めた。敗れはしたものの全力プレーを貫いた翔凜も素晴らしいチームであった。

〔女子準決勝〕

		15-8	
		6-17	
市川市立第六中学校	49	50	船橋市立七林中学校
(市川・浦安)		18-12	
		10-13	(船橋)

【評】

七林中、市川六中ともにハーフコートマンツーマンでスタート。市川六中は#17川島の3Pをかきわきに1Qの流れを掴む。対する七林中は、#4鈴木 of 積極果敢なドライブからのレイアップや#4鈴木・#6中北・#7安田の三線速攻で着実に加点。さらに、七林中はアグレッシブなDFでボールを奪いにいく。市川六中は全員でリバウンドボールに飛び込み、見応えのある試合展開が続き、前半を七林中が4点差でリードする。

3Qに入り、市川六中#17川島の2Pや#6中北のリバウンドからのバスケットカウントにより、逆転に成功。対する七林も#5山根のバスケットカウントにより、すぐさま同点に追いつく。

4Qに入り、市川六中#17川島・#7志村のスクリーンプレイから2Pと3Pを決め、この試合最大の8点リードする展開になる。しかし、七林も前半同様のアグレッシブなDFに加え、ルーズボールに果敢に飛び込みボールを奪う。残り4分、#6中北の3P、#4鈴木 of フリースローにて同点に追いつく。両者の白熱した攻防が続き、残り2分、七林の#4鈴木・#7安田の2Pでついに逆転し、4点のリードを奪う。市川六中も残り1分でタイムアウトをとり、#17川島のレイアップとフリースローにて1点差まで追いつく。しかし、七林が最後ボールをしっかりキープして決勝進出を果たす。最後まで全力プレーを貫いた市川六中の選手たちの健闘を称えたい。

令和4年度第53回千葉県中学校新人バスケットボール大会

男子準決勝 戦評

〔男子準決勝〕

		25-21	
		17-15	市原市立
船橋市立海神中学校	73	66	ちはら台南中学校
		14-11	
(船橋)		17-19	(市原)

【評】

第1Q、両チームともにオールコートマンツーマンでスタート。海神はよく走るオフェンスを展開。早い展開から海神#4駒木の3Pが連続で決まる。対するちはら台南も、粘り強いディフェンスから、スピード感のあるオフェンスを展開。ちはら台南#6山川のドライブ、#7渡辺のステップイン、#11永尾のバスケットカウントが決まり得点を重ねる。序盤、海神#4駒木の3Pが止まらず、#5菅野の3P、#6藤田の速攻も決まり、海神が勢いに乗る。第2Qに入ってから、両者スピード感のあるバスケットを展開。ちはら台南は、厳しいディフェンスから、#8平野のカットイン、#4栗原の巧みな1on1などで得点を重ねると、海神も#4駒木、の1on1、#7中坂の速攻や粘り強いリバウンドからのゴール下などで得点。両者一步も譲らない展開のまま後半へ。

後半も、一進一退の展開。海神は#7中坂がリバウンドを頑張り、#4駒木の1on1、#6藤田のフリースローなどの得点につながる。さらに、海神#4駒木の3Pが決まり、その差を広げ始める。対するちはら台南はディフェンスのプレッシャーを強め、#7渡辺1on1、#11永尾のバスケットカウントなどで食い下がる。第4Qに入ると、ちはら台南のリバウンドが機能し始め、その差を縮め始める。ちはら台南#11永尾のフリースロー、#8ゴール下、#7渡辺のステップインなどが次々に決まり海神に迫る。対する海神は、粘り強いリバウンドから早い展開に持ち込むバスケットを続け、#8加藤の3Pを決めると#7中坂もバスケットカウントを沈め、追従を許さない。最後まで差は縮まらず、海神が決勝進出を決めた。最後まであきらめず戦ったちはら台南の選手たちに拍手を送りたい。

〔男子準決勝〕

		15-17	
		12-20	
成田市立成田中学校	63	64	市原市立五井中学校
		19-11	
(印旛)		17-16	(市原)

【評】

互いにハーフコートマンツーマンでスタート。五井は、#4永野・#9ガルシアのインサイドプレーや、#7小原・#10齋藤のスピードあるプレーを中心に得点を重ねる。対する成田は、#7酒井や#18大木のドライブを中心としたプレーで得点を重ねる。両者ともに激しくリバウンドを争い、拮抗した流れが続いたまま、第1Qが終了。第2Qも五井は速い展開でのオフェンスに持ち込み、得点を重ねていく。成田も#7酒井のドライブ等で応戦するも、五井#9ガルシアの高さの前に攻めあぐねる時間が続く。五井は#10齋藤のバスケットカウントで点差を広げ、10点差で前半を折り返す。

第3Qは、開始から両チームともに点の取り合いとなる。成田は#3太田・#18大木の3Pで点差を詰めるも、五井も#4永野・#7小原の連続得点で流れを引き戻す。一進一退の展開が続くが、終盤に成田が#7酒井の3Pや激しいディフェンスから#11渡邊の速攻で1ゴール差まで詰め寄り、3Qが終了する。第4Q、序盤から流れをつかもうと、両チームともに激しいプレーを展開する。開始3分で五井#17鳥海の3Pで6点差まで広げるが、成田も#11渡邊のドライブや#18大木のバスケットカウントでくらくつく。その後も五井はドライブからの得点、成田は3Pで応戦し、白熱したシーソーゲームが展開される。残り1分、五井#7小原の速攻が決まり3点差とするも、成田は#9林がフリースローを2投決め、1点差に戻したところで、五井がタイムアウト。タイムアウト明け、両チームともに最後まで気持ちの入ったディフェンスとリバウンドを見せ、得点が動かずにそのまま試合終了。五井中が1点差で白熱したゲームを勝ち上がった。最後まで粘り強く戦った成田中の健闘も称えたい。

令和4年度第53回千葉県中学校新人バスケットボール大会

決勝 戦評

〔女子決勝〕

		13-13	
		21-6	船橋市立
昭和学院中学校	56	41	七林中学校
		13-13	
(市川・浦安)		9-9	(船橋)

【評】

第1Q、昭和学院はオールコートマンツーマン、七林はハーフコートマンツーマンで試合がスタートした。昭和学院は#4山本、#5新谷のスクリーンプレーを交えた1対1、対する七林は、#4鈴木の1対1、アウトサイドシュートで得点を重ねる。互いに緊張感のある、一進一退の攻防が続き、同点で第1Qを終えた。第2Q、昭和学院の鋭いドライブに対しファウルがかさむも、七林は果敢に1対1や3Pを中心に攻める。昭和学院は#7長尾の粘り強いリバウンドやフリースローでリズムをつかみ、流れは次第に昭和学院へ。15点差で前半を折り返した。

第3Q、前半に引き続き、昭和学院のペースで試合が進む。七林は昭和学院の1対1に対し、積極的にディフェンスカバーやダブルチームを仕掛けるもボールを奪うまでには至らない。両チーム1対1を中心に攻撃を行うも点数は縮まらず、昭和学院リードで第3Qを終える。第4Q、七林は昭和学院のリバウンドからのインサイドでの攻撃、1対1に対し、オールコートマンツーマンディフェンス、ダブルチームで対抗。オフェンスではスクリーンから2対2、速攻で最後まで互いに点数を取り合う展開になった。試合は、最後まで1対1を中心に攻撃を行った昭和学院の勝利で終わった。昭和学院が5年ぶりの栄光を手にした。最後まで走りぬいた両チームに会場から温かい拍手が送られた。今後の両チームの成長に期待したい。

〔男子決勝〕

		21-15	
		19-17	
船橋市立海神中学校	71	62	市原市立五井中学校
		15-11	
(船橋)		16-19	(市原)

【評】

両チームともハーフコートマンツーマンからスタート。1Q、海神#4の駒木の3ポイントで先制すると五井は1on1をしかけながら、#9ガルシアのポストプレーで得点をしていく。海神は#4駒木のアウトサイドシュートを中心に攻めながら、#8加藤の連続得点で得点を重ねていく。また、1on1からの得点、あわせのプレーからの得点も多くなっていく。五井も#10齋藤、#7小原の得点からリズムを取り戻していく。2Q、五井#小原の3ポイントで差を縮め、また#9ガルシアのリバウンドシュートやポストプレーからの得点で点差を縮めるが、海神も#4駒木や#6藤田の3ポイント、#7中坂の果敢なドライブで得点していく。また、ポストプレーに対するスティールからの速攻で得点し、逆転を許さない。

3Qも、両者ともにDFの強度が落ちず、ルーズボールにも果敢に飛び込んでいく。高さで劣っている海神だが、オフェンスリバウンドからの得点や3ポイントを重ねる。対する五井も#9ガルシアのポストプレーだけでなく、スクリーンプレーやサイドからのセットプレーを使い、得点をしていく。4Qではお互い得点をしていくなか、試合を通じて強度の落ちない海神#5菅野のポストディフェンスを中心に、点差がなかなか縮まらない展開となる。残り3分を切ってからは、五井の#7小原の精度の高いジャンプシュートなどで7点差まで縮めるが、海神も最後までディフェンスのプレッシャーを下げずに71-62で海神が勝利をした。最後まで懸命に戦った五井中の選手たちの健闘を称えたい。